阿蘇中岳 2016 年 10 月 8 日噴火の空撮映像の判読（速報）

気象庁が九州地方整備局の協力をえて 10 月 8 日午前に上空から撮影した写真を判読した結果，以下の観察結果が得られた.

・火口付近の噴出物の層厚は，退避壕や遊歩道の木柵の埋没程度から 1m は超えない（写真 3）.

・火口から約 1 ㎞内には火山岩塊によって形成されたと考えられる多数の衝突跡（インパクト・クレーター）が確認される．火口南側と南西側では，長径 2m 以上の衝突跡が多数確認した（写真４）.

・火口付近の噴出物の所々から白い蒸気があがっていることから，噴出物は高温でかつ湿っていると考えられる（写真 5，6）．なお，火口西側，火口縁から 200m ばかり離れた地点において，顕著な噴気が認められる．他の地点から上がっている噴気より規模が大きいので，新たな噴気の可能性もあるので継続して観察していく必要がある（写真 5）.

・火口底には，平滑な水面と判断される部分が存在し，そこから蒸気があがりかつ，硫黄の浮遊も認められる．そのため湯だまりは部分的に存在していると考えられる（写真 7）.

今回の噴火は，湿った高温な噴出物が爆発的に放出されていることからマグマ水蒸気噴火の可能性が高い．また，湯だまりがまだ火口内に存在することから，今後も同じようなマグマ水蒸気噴火が発生すると考えられる.

写真１　南側から中岳火口を望む.

火口周辺から北北東にかけて厚く噴出物が堆積.

写真２　西側から中岳火口を望む.

写真 3　中岳火口南西側の拡大

退避壕や木柵（丸囲い内）の埋もれ具合から噴出物の層厚は 1m 未満（おそらく 50 ㎝以下）である.

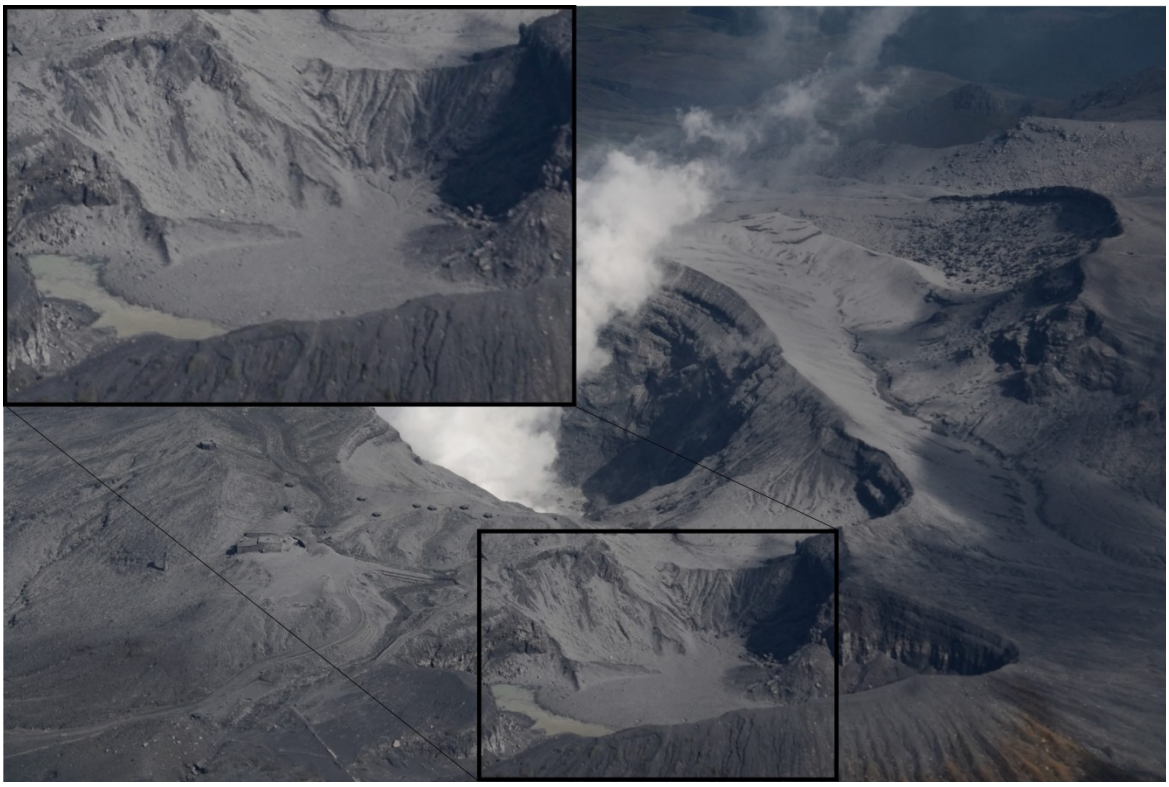

写真 4　中岳南側の衝突跡（インパクト・クレーター）

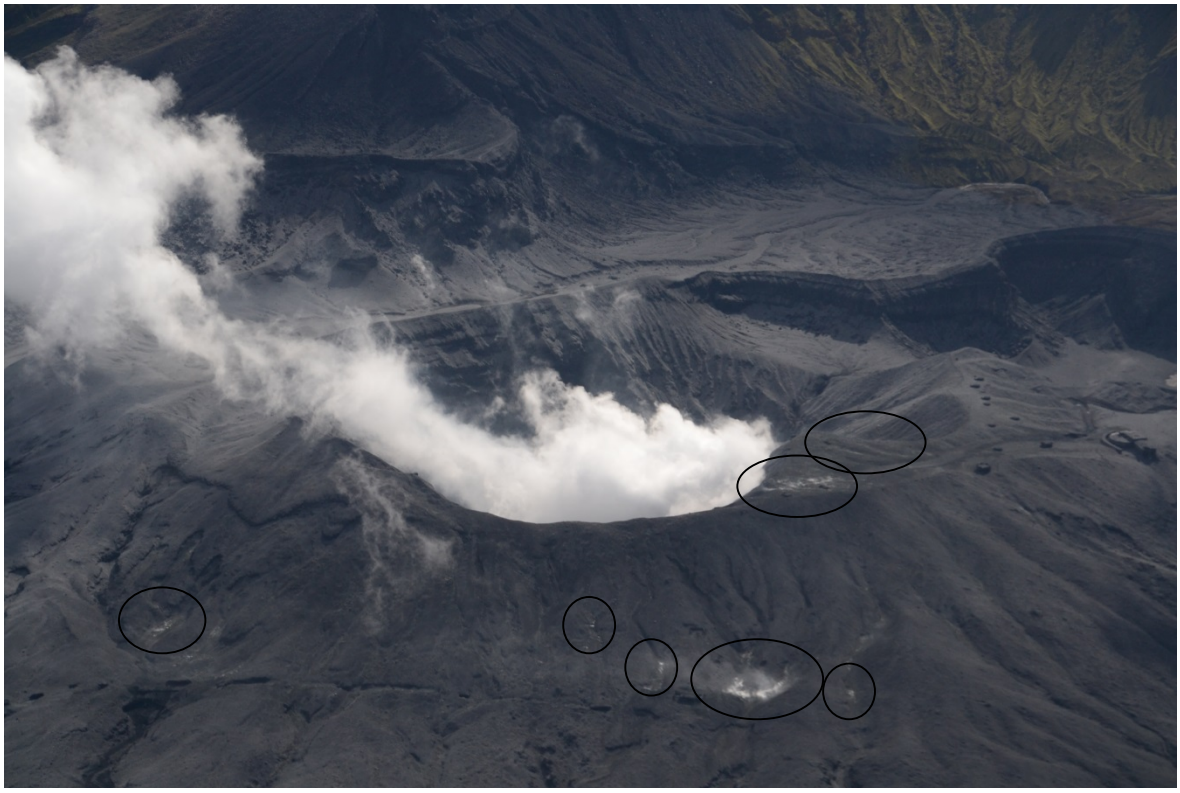

写真５　火口外からの白い蒸気（丸囲い）

湿った高温の噴出物であることを示唆する.

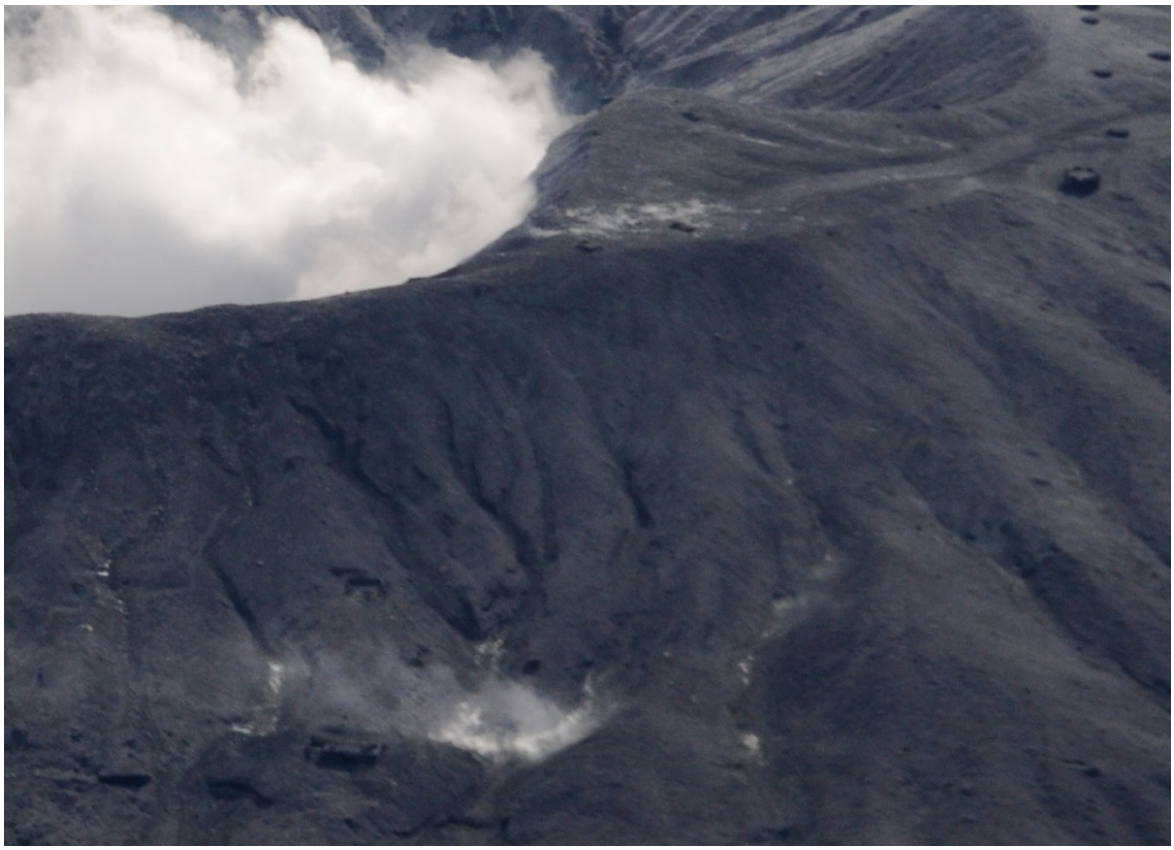

写真６　写真５の拡大

写真 7　火口内の湯だまり

火口内に湯だまりと判断される平滑な灰色の部分が認められる．また，浮遊した硫黄の帯（矢印）も観察される．

写真 8　火口内の湯だまりの拡大